

心ない言葉がコロナ差別につながります

2021年5月6日
コンプライアンス推進室

現在、3回目の緊急事態宣言が発出され、世の中が新型コロナウイルス感染症への不安に包まれています。

誰もが感染したくないし、身近な人を感染から守りたい、そう思っているはずですが、ただ、その思いが、過剰な反応になってしまったり、人への攻撃になってしまう場合もあります。

日常の中で、思い込みで何気ない一言を発していませんか。

「あの人コロナから復帰したらしいけど、どうせ飲み歩いてたんじゃないの？」

「あの人東京出身？コロナうつしにきたの？」

「あの人喘息っていったけど、コロナだよな」

これらのほとんどが思い込みや過剰な反応です。

攻撃してやろうと思っていなくとも、このような行為は、ハラスメントとなり、また行き過ぎて悪質になると法的責任を問われる可能性もあります。

正しい知識に基づいて冷静に行動する、それがとても大切です。

苦しむ必要のない人を苦しめたり傷つけたりすることはやめましょう。

差別的な発言をなくすことも、重要なコロナ対策の1つです。



参照

① [法務省：新型コロナウイルス感染症に関連して「差別や偏見をなくしましょう」\(moj.go.jp\)](https://www.moj.go.jp)

② <https://www.yomiuri.co.jp/election/yoron-chosa/20210429-OYT1T50251/>